私のだざいふ

書道家　西尾（にしお）　真紀（まき）さん

私の両親は太宰府へ住んで50年となります。
私もこの地で誕生し、高校まで地元の学校で過ごしました。10歳のころ近所の友達に誘われて書道教室へ通うようになり、先生から書くたびに褒められたことが今日の原点です。
丘ひとつ越えた太宰府高校の芸術科書道専攻では盆正月のない鍛錬の日々を過ごしました。
大学進学で東京生活を経て福岡に戻り広告代理店へ就職。書を用いた商品ロゴや看板デザイン、書道パフォーマンスなど様々な修行を重ねていた20代の頃、開館準備の進む九州国立博物館の「シンボルマーク」に携わることになり大きな自信に繋がりました。
太宰府市内に事務所を構えて13年目。2児の母となり、仕事と家庭を両立する中で温かい地域の方々に支えられていることを実感する日々です。
50年前にこの地を選んでくれた両親に感謝し、これからも私を育ててくれた太宰府から「書とデザイン」を通してご縁をいただいた皆さまの想いをカタチにできれば幸いです。

KYUSHU NATIONAL MUSEUM
九州国立博物館

Contents
目　次
2025年6月号

特　集
日本語、伝えませんか？ …… 5～7
安全を守る、正しいごみの分別 …… 8～11
市からのお知らせ…… 12～15
連　載…… 16～25
なんでも情報コーナー …… 26～31
太宰府の文化財 …… 32

※掲載記事は編集作業の都合上5月15日時点までの情報に基づきます。配布時とのずれなどございましたらご了承ください。

市政ニュース

子どもまんなかの施策展開　子どもたちの声を形にしました

月見山公園にブランコとすべり台設置

放課後子ども教室の活動に参加していた小学1年生（当時）の女の子の「通学路の公園にみんなで遊べる遊具が欲しい。」との声から、月見山公園にブランコとすべり台を設置しました。声を届けてくれた子はもちろんですが、この公園がたくさんの子どもたちの笑顔あふれる場、大人にとっても童心に戻れる場となってほしいと願います。

設置されたブランコ

タビットケーキでまちおこし

地域課題の解決やまちの活性化につながる取り組みの提案を募集する太宰府市課題解決プロジェクトで、小学生たちが本市のキャラクタータビットをあしらったケーキを使ってまちおこしを図ろうと提案しました。この提案が、審査で上位の評価を得たことから、地元の坂本洋菓子店の協力を得て、試作品を作成。提案してくれた小学生の皆さんに試食してもらいました。

タビットケーキを箱から出す小学生の皆さん

待ちわびたブランコで遊ぶ小学生の笑顔、箱からタビットケーキを取り出す時の小学生たちのきらきらした表情につながったように、今後も子どもたちの声や提案に実際に予算をつけ、具体的な形になるような仕組みを実践していきます。